

平成 29 年度第 2 回府中市生涯学習審議会 意見まとめ

【今後のテーマ、キーワードについて】

- ・この 10 年間で生涯学習審議会も内容が大きく変わってきた。初めは高齢者問題が多かったが、だんだんと若者・学校・家庭教育の問題が入ってきた。前回は、家庭教育と地域の教育の在り方と社会教育がどのように学校教育に関わりあうことができるかという諮問を受けて答申を行った。
- ・第 1 次の 10 年の計画のキーワードは「カレッジ」、第 2 次のキーワードは「学び返し」だと思う。これらを踏まえて、第 3 次はどういうキーワードで考えていくのが大事である。
- ・平成 31 年から 10 年間なので、少なくとも 20 年は先を見据えて世の中の変化や生活環境の変化を十分考慮する必要があると考える。
- ・過去の答申を読んだが、「楽しい」ということが欠落している。
- ・活動自体が永続的ではなくダイナミックではないので下火になってしまうと思う。生涯教育は参加して楽しいということが一番のキーワードになると思う。スポーツをやっている楽しさがあるような活動をぜひ織り込むといいと思う。
- ・前々回の答申の時に、今までやったことがどれくらい実現したのか、どこが欠落しているのかを検討して文章にした。
- ・審議はさせていただいたが、結局何ができなかったかというのは、行政がどの程度真剣に取り組んでそれをやろうとしたかの 1 点につきる。資金の問題等を考えた時に、答申をした中身というのは全部が成果として出ているわけではない答申の中にできているものとできていないものとあり、できていないものは持ち越して検討という形になると思う。

- ・人材バンクとかは府中市の「市民協働¹」というもう1つのキーワードだと思っている。市民協働は生涯学習とは別になって既にスタートしてしまっている。市民協働の部分は協働推進課²に移したままで良いのではないかという気がしている。今度の生涯学習推進計画を立てる時にその辺の区分けというか、どの範囲を私たちの議論の対象にするのかを考えなければいけないのではないかと感じている。それと同時に家庭教育にもあったが、それは既に府中市では子育て支援課など新しい体制もできているので、そういう全体像の中で私たちが議論していくカテゴリーをある程度絞った方が良いと思う。
- ・全体の枠組みが欲しいということは重要だと思う。推進計画は第1次と第2次と策定され、第3次となるわけだが、府中市の子どもの比率と高齢者の比率などの人口動態推移の過去20年があって、未来10年の予想もできると思う。人口動態から比率を考えれば生涯学習の取り組み事業は教育事業の中に位置づけられているとはいえ、健康年齢の向上させるものなども入れるような形の方が、ボランティアと称して地域に出るきっかけになるのではないか。比較的長期の様々なデータを委員の皆で共有して、その中でこの組織が市の中でどのような位置づけにあるのかと併せて、できることを議論できたら良いと思う。

【学び返しについて】

- ・時代が変わっているので、この大きな変化を前提にして、何が課題かというのを審議会で議論すべきだと思う。第1次で計画した重点施策の市民カレッジは、今では有名無実となっていると思う。また、市民の皆さんは「学び返し」という言葉をどう感じているのか。私の印象としては非常に古典的で今の時代にあっていないのではないかと思う。

¹ 「市民協働」

- ・市民、市内で活動している色々な団体、企業や市役所など、異なる立場の人たちが、それぞれの得意なことをいかし、協力して地域の課題を解決すること

² 「協働推進課」

- ・市民協働の推進に関する計画等の策定及び啓発事業の実施
- ・市民活動の支援、NPO・ボランティア活動センター、国際交流サロンの運営管理などを行っている。

- ・日本は急激な少子高齢化に入っている。これからは、女性と高齢者が社会の一員として役割を果たし、いかに社会の一員として活躍できるように生涯学習で支えていくかが重要な課題になっていくと考える。ところが今は、7%くらいの人しか「学び返し」を真面目に取り組んでいない。そういう人たちが社会の一員として自分なりの役割を果たすことは至難の業だと思う。
- ・私が常々思っている大切なことは高齢者の意識改革だと考える。これは、現役を卒業した時に社会の一員としてどう生きていくのかという感覚である。日本は先進国の中でとても遅れている。日本でもボランティアをする人がだいぶ増えてはいるが、学び返しを積極的に行う人は少ない。この一番の原因は、日本人の意識の低さがあると思う。その意識をどのように変えるのかは、現役の時代からのきちんとした教育・指導、市でいうとセミナーなどの重要性を認識させる啓蒙活動等をもっと徹底して意識を変える必要があると思う。その辺をどうやって生涯学習の中でサポートしていくかが課題だと思う。
- ・高齢者をいかにボランティアや社会、特に地域に引き込むかというのは、10年前からの大きな課題であった。年齢的にも団塊の世代をたくさん排出したこと、優れた人びとが地域とあまりコミュニケーションをとらずに会社中心であったということがある。高齢者でボランティア的に動ける方を何らかの形で吸収して地域の活性化・教育の向上につなげていきたいという意思は最初から持っていたと思う。それにも増してこの10年間で学校教育の在り方や貧困家庭の問題、青少年の問題などいろいろな問題が起きて学校教育も学校だけではうまくいかない問題が起きてきた。
- ・府中国際交流サロンで日本語教育をずっと行っているが、このところ高齢者のボランティアがとても増えてきている。それは、団塊の世代の方が入ってきたことによる。非常にやる気があり、高学歴で優秀な方が多い。高齢者があまり貢献したくないというわけではなく、役に立ちたいと思っている人はたくさんいる。その人たちをうまく引き出せてないのではないかと思う。
- ・広い意味で言えば、遊びを中心に活性化したいと思う。誰でも単に習う勉強なんて非常に嫌なもので、外国語でも試験のために覚えるのは嫌だと思うだろうが、国際交流とか外国人と話すためだと非常に面白さがある。いかに遊びを作るかが難しいことであり、これからは是非考えていきたい。そういうことを重点的に地域で行うべ

きである。

- ・府中で良いと思うところは、お祭りが盛んなところである。子どもと親、その親の三世代が1つのことに対して一緒に取り組めることが見ていて素晴らしいと思う。あえて言えば、お祭り以外の時はそういう場が少ない。三世代がそれぞれの役割を果たしながら、互いに交流するのが素晴らしいと思う。
- ・学び返しについてだが、現在一方通行的な形になっていると思う。上から下、さらに下、そして戻ってくるという循環の流れではなく、ジュニアの世代からシニアの世代、あるいはシニアからミドルに行って、ミドルからシニアにという流れが大切ではないか。近所付き合いではないが、与えられたら与えるという、言ってみれば1つの運動が起こるきっかけを市が与えると良いのではないか。最近、いろいろな大学と民間あるいは公的な機関と一緒にやろうという話しがよく来るが、一緒に集まってお互いのことを知り合いながら、そこから何かを始めるきっかけにしようという集まりがある。行くとすごく活性化していて、お互いから何かをもらいたい、あるいは与えられるものがきっとあるのではないかという気持ちで行くわけである。自分が持っているものは自分だけのものではなく、皆で共有することでそこに喜びがある。そして結果的には自分にとっても良いことになるという循環が生まれるきっかけを作る動きがあってもいいと思う。それが、いわゆる三代に渡って循環的な受けたり与えたりするきっかけを作るような流れを生み出せたら良いと思う。
- ・おじいちゃん・おばあちゃんも社会に出て何かしたいが何をしたら良いかわからない、あるいは自分は必要とされていないのではないかと感じていて動けない部分があると思う。むしろ違う世代と触れ合うことで、自分にとってできることがあるのだと思える。周りの子どもたちと触れ合って、子どもたちの姿を見て自分にはこんなことができると思いつくかもしれない。そういうアイディアは、年は関係ないと思う。新しいことを始められるような交流や違う世代が何を求めているか、自分にも与えられるかもしれないと知るきっかけを提供することが1つのキーになると思う。まずは、知ることから初めて、次はシステムや枠組みを作ることでもう少し活性化するのではないか。与える一方で帰ってこないのではなく、そこに循環が生まれるような流れにならないと継続的にはならないと思った。
- ・「学び返し」という言葉を最初にピックアップした時は、確かに高齢者から若い人にと意識はあったが、逆の立場もあると思う。教えたり教え返すのが「学び返

し」という言葉で、高齢者が必ずしも若い人達を引っ張っていくという意味ではないと思う。相互にコミュニケーションし合い、特に学校教育だけではできなかったような問題を町ぐるみで作り上げていけば、それはそれで非常に大きな成果になると思う。

- 三世代家族型社会として、子どもたちは何もしなくてもおじいちゃん・おばあちゃんに与えるものはあると思う。例えば、一緒に歌を歌ったり、一緒に将棋を指したり、カルタをしたり、その姿を見ることでおじいちゃん・おばあちゃんは力をもらおうと思う。そういう意味で子どもたちからシニアの世代やミドルの世代に与えられるものがあると思う。そういう刺激を全ての世代で分かち合えたら良いと思う。
- ポートフォリオのような個人が何をできるかというのをもっと明快にして告知すれば活用できると思う。40代・50代の働き盛りの頃に会社勤めをしていると、コンピューターや金融など得意分野、特技があると思う。しかし、その人が地域に戻った時に自分の居場所がない、何をしても良いかわからない。地域の方でも、その人がどんな人かわからない、何をしてくれるのかわからない。例えば、コンピューターの専門的な知識をお持ちの方はその知識を地域で活用できるし、逆にビジネスの専門知識だけではなく、いろいろなビジネス世界以外の個人の特技等をもっとオープンにするシステムがあれば、必要としている人に届けることを推進するような呼びかけを答申ですると良いと思った。
- その呼びかけ自体も最初はやはり市の方で、ある程度形になっているシステム自体を地域に貢献したいという人達で人材バンク的なものを運営したら良いと思う。もちろん地域の場合も、こういった人が必要だという情報を洗い出して、ヒアリングをする。この学校ではこういう人を必要としているというのを聞くのがファシリテーターの役割だと考えるので、ファシリテーターと人材バンク的なものが連動して活用すると理想だと思う。
- せっかく「学び返し」というテーマが出ているので、「学び返し」を具体的に実行していかないともったいないと思う。ファシリテーターの方もそのために3年間も勉強されているのに、才能が眠ったまま活用されないのは本当にもったいないと思う。

【外国との比較について】

- ・ 今までの考え方はこの豊かな時代にいかに充実した人生を送るかが基本にあると思う。しかし、アベノミクスなどでお金をたくさん使って景気を維持しようとしているが、実際の市民の生活というのは先進国と比べると豊かではない。生活保護の対象となる人たちが急激に増えている。なぜならば、給与は増えず、企業はグローバル化の時代の中で会社を維持するために人件費削減に走っている。これからは貧しい人たちが急激に増えてくるという時代に直面しているという事実がある。
- ・ 外国と比較したときに日本の生活の中身と違っていることによって、日本で活動する中身と外国で活動する中身は当然違ってきている。その辺のところは資金的な問題で、外国では政府が補助しているのか地域が補助しているのかどういう形なのか聞きたいと思う。そういう動きも含めて、大きな問題としてあるのではないかと考えている。
- ・ 外国との大きな違いはお金だけではない。アメリカで5年間教えていて、3年間大学院にいたとき、地方のいろいろなことに貢献しないといけないというので、折り紙の折り方などをアメリカの子どもたちに教会で教えたりした。システムというのは、地域貢献に関しては非常に良くできている。文化度はどちらが高いとは言えないが、もともとある文化度が違うという認識が強くあるので、今後ディスカッションして入れていきたいと思う。

【生涯学習サポーター・生涯学習ファシリテーター】

- ・ 生涯学習サポーターを登録して依頼できるシステムと生涯学習ファシリテーターを育成して、地域の「学び返し」を推進していく中で、ファシリテーターをつなぎ手として必要とされる側と提供する側を結ぶという仕組みをもっと活用した方が良く考えている。
- ・ ファシリテーターは府中市がお金を出して育成をしているので、有効に利用しないと地域にとっても損だと思う。
- ・ ファシリテーターの教育を3年間かけて行っているが、なぜそれが繋がっていないかという、具体的な施策が出てこないからだと思う。誰かが中心になってそれを推進していく形にしないとその先の進展がない。何回か会合があったが、会合だけで終わってしまってその次の展開が無い。どうしてできないかという、

またやろうと言う人が誰もいない。これが問題だと思う。確かに皆さんがおっしゃっているのは素晴らしい意見だが、それを実現するためにどういう風にすれば良いのかという施策があまりない。これは行政も手伝っていただかないと、人と物と金は必ず絡むので、うまくこれらを使いながら整列させる必要があると思う。

- 学習関係については目に見えないからできていないように思えるが、社会教育分野ではいろいろな形でやっている。今の段階では集合して、あちこちでサロンを作って高齢者の役に立とうと努力をしている。それは、ファシリテーターがいるからこそ進んでいるので、少しずつ意識は芽生えていると思う。学習の中でどうやってそこに持っていくかは、まだわかっていないところである。
- ファシリテーターについては、ずいぶん長い間講座が開かれているが、なかなか実践に結びつかないのが現在の悩みではないかと思う。私はボランティアという立場からいろいろな生涯学習に協力している。生涯学習フェスティバルは府中市の主催で生涯学習の成果を発表する場なので、この実行委員は、ファシリテーターの人を中心にやってほしいと思う。